



次の10年を見据えた 予防業務将来計画 ～ 予防要員育成のために ～



大阪府 泉州南広域消防本部

事例類型 I 実効性向上 / II 高度化・専門化 / V 人材育成

取組期間 令和2年4月から

背景

当消防本部は平成25年に広域化し令和4年度で10年を迎えるにあたり、これまで業務の統一、効率化を図ってきたが、経験豊富なベテラン職員の退職により世代交代した若手職員の予防業務の経験・知識の不足や予防業務に対する消極的な意見が課題となってきた。

そのような中、「立入検査の重点化・効率化の推進について」(平成30年12月21日付け消防庁予防課事務連絡)を踏まえ、「安全で安心して暮らせる泉州南」を基本構想として、10年後を見据えた将来構想計画を策定し、予防要員の育成や警防業務に従事する消防職員を活用した立入検査の実施を目標に、まずは若手職員に「予防への興味」を持たせ、予防要員としての「やる気」を引き出し、「わからない」を解決するための方策として様々な取組を開始した。

内容

1 予防技術資格者の増加に向けた取組

予防技術資格者として認定され、予防業務に従事する職員に対しては、新たに作成した予防技術資格者証(バッジ)を交付式にて貸与し、左胸にはい用して業務を行うことにより資格の「見える化」を図った。

また、令和4年度からは、予防技術検定合格者に対して、昇任試験の特別加算を行うこととし、更なる資格保有者の増加を図る予定である。



予防技術資格者認定証交付式

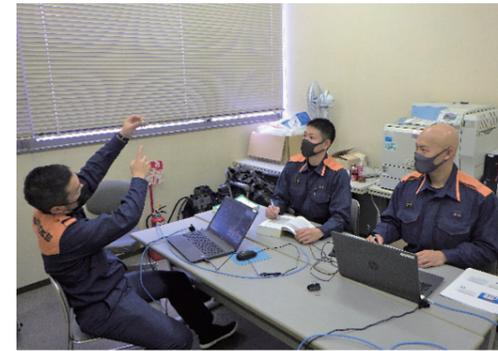


左胸にはい用した資格者証(バッジ)

2 予防業務実務型研修の実施

各消防署の若手予防職員に対して、本部予防課勤務(毎日勤務)を通して基本的な知識を学んでもらう予防業務実務型研修を開始した。期間中は選択したコース(設備、危険物、査察の各コース:期間は各2週間)の内容に応じ、座学によって基本的な知識を習得し、審査実習や模擬検査を経て実際の検査等と同行する。

また、研修中、予防技術検定の受検者には小テストや解説を行うことで、合格へのバックアップを行っている。



座学の様子



模擬検査の様子

3 警防要員の予防業務への参画

予防要員以外の職員にも予防業務に興味を持ってもらうため、令和2年度から「現場隊員向けの予防の知識」として、現場活動に役立つ予防知識に特化した研修を実施してきたところである。

また、令和4年度からは警防業務に従事する職員が防火対象物及び危険物施設への立入検査を行う「警防査察」を開始する。

成果

予防技術資格者証(バッジ)については、作成して以降、予防技術資格が目に見える成果となり、職員のやる気度アップを加速させ、予防技術検定の受検者数、合格者数ともに飛躍的に増加し、令和2年度の予防技術検定では87.5%の高合格率につながった。

予防業務実務型研修においては、1回当たりの受講者数を2名までとする事で、受講者のレベルに合わせて必要な知識を短時間で取得できるカリキュラムを組むことができ、受講者からも好評を得ている。

検定区分		受検者数	合格者数	合格率
防火査察	全国	4,668名	3,127名	67.0%
	当消防本部	6名	5名	83.3%
消防用設備等	全国	2,347名	1,102名	47.0%
	当消防本部	4名	3名	75.0%
危険物	全国	1,817名	1,084名	59.7%
	当消防本部	6名	6名	100.0%
合計	全国	8,832名	5,313名	60.2%
	当消防本部	16名	14名	87.5%

令和2年度予防技術検定受検者の状況

特記事項

警防査察に向けて図解、解説入りの立入検査マニュアルを作成するとともに、警防査察に向けた研修を実施し、査察経験のない職員へのバックアップを行っている。

令和4年度からは予防業務実務型研修に「警防査察コース(3日間)」を追加し、警防職員に対する研修を継続していく。



警防査察署員研修



立入検査マニュアルの活用